



校訓
自立・創造

学校だより

若草

平成22年5月11日
尼崎市立若草中学校(第3号)
<http://www.ama-net.ed.jp/school/J07/index.htm>

修学旅行に行ってきました

沖縄の文化・自然・歴史をとことん味わいました

3年生は、4月25日～27日の三日間、あの沖縄に修学旅行に行ってきました。今や「米軍基地移設問題」で「普天間」「嘉手納」「辺野古」などの地名をニュースでよく聞きます。そのさなかに、行った当日は、入村式を行う予定の「読谷村広場」が「県外移設」を訴える10万人県民集会で座喜味城趾に変更になるほどの混雑ぶりでした。

そんなあわただしい中、最終日に雨にたたられたり、体調を崩した人もいたりしましたが、なんとか予定通り、各行事をこなすことができました。全員が、大きなトラブルや事故もなく、無事に帰ってこれたことが一番うれしいです。その意味では成功と言えるかもしれません。

しかし、本当の成功かどうかは、卒業まで待たないと分かりません。この三日間も大切だけど、この経験を、これからの学校生活でどう活かしていくかがもっと大事です。

特に、沖縄の歴史には、私達が考えなければならないいくつかのポイントがあります。あの温かい「いちやいべ家族」(民泊した家の方々)の明るさや人情の裏にある、戦争の歴史をしっかりと胸にきざみこまなければいけません。

ここで、平和記念公園で私達が戦没者追悼のための黙禱をしたときの、代表生徒、佐渡さんのことばを紹介します。



いちやいべ家族とお弁当



閉村式 いちやいべ家族とお別れ



ひめゆりのガマに黙禱



千羽鶴を捧げて黙禱

「人の温かさに触れ」若中生の修学旅行の感想

民家の人たちはとても優しく温かい人ばかりでした。海・温泉などいろいろなところに連れて行ってくれました。食事では、タコライス・沖縄そば・黒糖・ゴーヤチャンプルなどいろいろな食べ物をいただきました。人の温かさがいちばん心に残っています。(政後龍太郎)



三線に挑戦

「今の沖縄になるまで」

昔の沖縄県民がこんな苦しい生活をしていたと考えると、ひめゆりの生き残りの人の話はちゃんと聞けません。しかし、今の沖縄はとてもいいところで、きれいな自然に囲まれているけれど、こうなるまでにものすごい時間がかかったんだなあと思いました。(昇 綾乃)

「沖縄の歴史から考える」

沖縄戦でたくさんの方が亡くなり、その半分は沖縄県民。住民も巻き込まれてしまうほどの悲惨な歴史や事実を学んだ。今でも米軍基地が残っているのだから県民は苦しんでいる。これから自分が社会に出て行くのに、そのような問題をどうすればよいか考えていきたいと思った。(野澤 美菜都)

「私たちの幸せを考える」

修学旅行を振り返って反省しなければいけないことがたくさんあった。けど、戦争の話などを聞いてよかったし、たくさん勉強ができてよかった。戦争がどんなものか、改めて心に響いたし感動した。それを考えると、今、自分が生活していることを大事に思わないといけないと思った。また沖縄には絶対に行きたいと思った。(森田 愛)

放課後チャレンジスクール始まる

5月24日(月)から「放課後チャレンジスクール」が始まります。リーダーの上谷先生や大学生のお兄さんお姉さんとともに、自主勉強を行います。時間は、毎週月曜の15:45～17:15(テスト前の平日も)です。教科や教材は、学校の宿題でも問題集でも、何をやっても自由です。「クラブ休日参加」もありますので、積極的に申し込んでください。

1年生はいよいよ宿泊学習

5月13日(木)～14日(金)に、1年生は「宿泊学習」として、日本海の佐津海岸に行きます。スローガンは「けじめをつけルールを守り楽しもう!」です。佐津の自然と文化を味わいながら、1年生が1泊2日で一層たくましくなることを期待します。当日は、一斉メールで近況報告をします。

今回、この「平和の礎」を見学するために私達は学校で、映像を見たり、資料を読んだりしました。それらに共通することは「戦争の恐ろしさ」と「戦争の愚かさ」でした。

自分の家族を、自分の友人を、目の前でなくしてしまった人たち。追い込まれて自分の命を絶ってしまった人たち。同じ人間でありながら、殺し合いをせざるを得なかった人たち。そして、残された人たち。

この傷跡はどれほどのつらさなのでしょう? どれほどの苦しきなのでしょう? 私達には想像すらできません。歴史の中で、世界で、日本で、そしてこの地で戦争がありました。その事実は消えたり、変わったりすることはありません。

しかし、そのことを胸に、未来を創っていけるのは、今を生きる私達です。今この時にも世界では戦争があり「悲しみの連鎖」が続いています。もうこんなことがなくなるように...私達はいろんなことを「学び」「考え」「行動」して行かなくてはなりません。

最後にこの戦争で亡くなった世界のすべてのの方々への追悼と、世界の平和を祈念して、1分間の黙禱をしたいと思います。 黙禱!

沖縄の、エメラルドグリーンの本本当に透明な海で、マリンスポーツをした体験も、一生忘れられないと思いますが、「人の命の大切さ」を改めて考えさせられた、沖縄の歴史も決して忘れてはならないと思います。

最後に、生徒たちは、実行委員を中心に、本当によく頑張りました。実行委員に拍手!です。そして、陰で支えてくださった、旅行社の方、写真屋さん、現地のいろいろなスタッフ・住民の方々・バスガイドさん、そして費用を出してくださったお父さん・お母さん。心から感謝します。



ロケットボートで出発

図書ボランティア募集中 昼休みの時間帯、図書室の貸し出しなどを手伝ってくださる方は教頭まで。